

お わ り に

新型コロナウイルス感染拡大防止のため2か月の臨時休業から始まった令和2年度。学校への登校ができない状況の中で、これからの学校はどうあるべきか？学校の本質が問われるスタートとなりました。

学年ごとに時間をずらしての課題配付、教科ごとにブースを設けての課題チェックと質問の受け付け、授業動画の配信と今までにない活動が行われました。6月からの学校再開では、新しい生活様式のもと、手洗い・消毒の徹底、毎日の検温と健康チェック、校内での3密回避が行われ、学校の体制も大きく変わりました。外部との交流の機会も減り、宿泊学習や校外学習が実施できなくなり、修学旅行も1泊2日での県内実施となりました。

このような状況の中で、生徒が自ら考え、主体となりプロジェクト学習が行われました。

「Summer Project」では、コロナ禍のため、昨年度実施できなかった立志式が「飛躍の会」として行われ、学校祭は、3密回避・時短の制限の中で工夫をして行われました。文化祭最後の「虹」の合唱が、みんなで作り上げることの喜びと素晴らしさを実感させてくれました。「Autumn Project」では、各学年が安居地区と関わる活動で、今まで以上に安居を知り、安居地区の人との繋がりが深まる活動が行われました。「Winter Project」では、生徒主体で「流星の集い」が行われ、苦手なものに自ら挑戦する姿に、強い意志とたくましさを感じました。そして、3年間の集大成として、制作された文集「3年間のタイムカプセル」。生徒達の学びの深さと成長を感じることができました。生徒が主体となり、みんなで協力してやり遂げる姿は、公民館で手を取り合い輝くイルミネーションが象徴しているかのようです。

将来、今の子ども達を「〇〇世代」と呼ぶなら、きっと「コロナ世代」と呼ばれることになるでしょう。安居中の「コロナ世代」は決してマイナスのイメージではありません。安居中の生徒は、困難にうち勝つため、みんなで考え、みんなで協力して行動し、よりよいものを作り上げていく大きな力がついていると信じております。最後になりましたが、これまで本校の研究に多大なる御指導、御協力をいただきました福井大学連合教職大学院の先生方、福井市教育委員会、県内各小中学校関係各位の皆様方には深く感謝いたしますとともに、今後ますますの御指導、御鞭撻を賜りますようお願いいたします。

令和3年3月 教頭 柴田俊之

研 究 同 人

牧田秀昭	柴田俊之	田村雅彦	高松由紀子	立山泰伸	森阪美文
伊部雅之	川端康誉	竹内恭平	赤澤聡美	加畑一代	川崎太地